

文化財だより

このページに関するお問合せは、
生涯学習文化財課学芸文化財班まで
TEL 045 - 210 - 8351

県内の国・県指定の文化財や出土品等に関する情報をホームページでも見ることができます。

『神奈川県文化財』

<http://www.planet.pref.kanagawa.jp/bunkazai/>

『かながわ いにしえ人からの贈り物』

<http://www.planet.pref.kanagawa.jp/city/shutudo/>

国指定重要文化財 旧住友家俣野別邸



横浜市戸塚区東俣野町に所在する旧住友家俣野別邸は、横浜市の西南端、藤沢市との市境に接し、真西に富士山を望む広大な敷地を有し、旧東海道から西方にアプローチ道路を取り付けて正門を構える洋風折衷住宅で、平成16年に国の重要文化財に指定されています。

旧住友家俣野別邸は、住友家16代当主住友吉左衛門友成の東京別邸として、佐藤秀三（佐藤秀工務店）の設計施工により昭和14年に建設されました。

構造は、木造二階及び平屋建、一部鉄筋コンクリート造地下室付で、主屋棟、子供室棟、サービス棟をY字形に配置しています。

主屋棟は、中二階をもつ吹抜けの階段室ホールを介して南側に日光室と居間を置き、その東方には食堂と配膳室を配しており、日光室の西側と食堂の南側にはテラスを設けています。二階には半円形平面の展望室、展望室と一室化された書斎等が配されています。

子供室棟は主屋棟の南東方に配置されており、サンルーム風の遊戯室、10畳規模の令嬢室等が配されています。

また、サービス棟は主屋棟の北東方につながっており、宿直室、事務室等が配されています。

旧住友家俣野別邸は、住友営繕の系譜をひく佐藤秀三の代表的作品であり、昭和前期モダニズムの影響下における、ハーフティンバー・スタイルを基調とした洋風折衷住宅建築として重要なものです。

また、食堂を中心としたコンパクトな平面構成に特徴があり、大邸宅建築における平面計画の変化が示されている点にも歴史的意義が認められ、郊外邸宅の在り様を物語る屋敷地とともに、保存が図られています。



古代の道路

前号は4月に平塚市東中原E遺跡で発見された古代の東海道の話でしたが、古代の道路は小田原市永塚下り畑遺跡でも見つかっています。長さは約11mと短いのですが、両側に側溝をもっています。幅は2.6~2.7m、側溝を含めても4.5mと、東中原E遺跡の道幅約9.7m(両側溝の底面間の距離)より狭くなっています。この道は硬化した路面が上下3面にわたって確認されており、9世紀半ばから10世紀にかけて使用されたと考えられています。1面と2面の間には間層が10~20cm入っていましたが、2面と3面は重なるように検出されました。2面と3面の厚さは併せて約20cmあり、とくに3面は土師器破片4,220点、小石1,316点、須恵器と灰釉陶器の破片664点を混ぜ合わせて敷き込み、舗装されたようになっていました。そのうち3cm以上の土師器は177点、小石は128点、須恵器と灰釉陶器は128点と極めて少なく、小片を選んでいきます。

ところで、最近、滋賀県野洲町の夕日ヶ丘北遺跡で長さ約100m、幅約3mの道が発見されました。幅約20~60cm、深さ約10~30cmの側溝が両側に付き、側溝から出土した須恵器などから古墳時代後期の6世紀前半頃に造られた、側溝をもつ道としては国内最古級のものと考えられています。